

大学の研究成果を社会に還元する！**知的所有権・TLOの勉強会開催**

大学発の技術・大学の研究成果を社会で実用化することが大学の活動の柱を広げることになります。何が何でも特許だというわけではありませんが、今までは日本の大学は特許をとらないように誘導されていたといっても過言ではありません。日本のエレクトロニクス関連会社から莫大な IC のロイヤリティー（特許使用料）がアメリカに支払われています。まだまだ実用化には遠い基礎研究と思っているもののほど、基本特許になりうるもので、ヒヨットすると莫大なロイヤリティーに繋がるのかも知れません。暗い話題の多い中、元気の素を貰えるかもしれません。勉強会をのぞいてみてください。

2001年2月23日(金曜日) 午後1時から

会場:資源育成学科会議室

13:00-13:20 民間企業から見ると特許のない研究は魅力がない: (学外からの眼) 矢澤一良氏 (湘南予防医科学研)
大学の先生の研究成果を企業が活用しようとするとその研究が特許で守られているか否かが重要です。金をかけて実用化しても他社に真似られては資金が回収できない。特許を取ることの大切さを企業活動の具体例から解説していただきます。

13:20-13:35 "大学人が特許に無関心だったのは当然です": 渡辺尚彦氏 (地域共同研究センター)

特許は自費でとるもの; 取ったところで評価は低い(マイナスにも); ・アメリカの大学では、今後独法化したら? ・国立大の特許環境のこれまでとこれから

**13:35-14:15 大学の先生の特許は JST でひきうけま
す: (JSTの特許化支援事業) 林昌郎氏 (科学技術振興事業団
[JST])**

国立大の教官の発明は発明委員会をへてほとんどは個人有になります。ご自分で特許にしてくださいということ。個人だと金を出せないで特許を止めるか企業にただ同然で贈与するか、

暫く! JST が無償で先生の代理で特許化します。但しその条件は...という有り難いお話を伺えます。

14:35-15:15 東京農工大の特許事情と TLO を見据えた改革 中村隆行氏 (東京農工大学共同開発センター)

10年前に共同研究センターを立ち上げ、驚異的な共同研究の実績を誇る農工大も特許に関しては対応が進んでいなかった。教官の特許に対する意識をどのようにして変えていったのか。大学の事情は大きく異なりますが、大変参考になるものと期待します。

15:15-15:55 山梨 TLO の立ち上げと現状

岡田勝蔵氏 (山梨 TLO プロジェクトリーダー・山梨大工・機械システム工学科) TLO (Technology Licensing Organization) は大学の教官等の発明を知的所有権(特許)として権利化するとともにそれを実社会で活用して(実用化)利益を上げることにより、大学へ資金を還流するための組織です。東京には多摩地区の20の大学が共同で参加する多摩 TLO が動き始めています。そういう状況のなかで TLO を立ち上げた山梨大の立ち上げの経緯と現状を伺います。

**15:55-16:15 水産関連の特許市場の現状とポテンシ
アル 手島直彦氏 (あいわ内外特許事務所・弁理士)**

水産関連分野ではどんな特許が活躍しているのでしょうか? また今後はどうなるのかについて伺います。

LC 専任教官に中村宏氏

初代の地域共同研究センター専任教官(助教授)に中村宏氏が決まりました。3月1日付けで就任予定です。資源育成棟1階の101号室が居室になりますが、“学内限なく出没する”と張り切っておられますのでよろしくお引き立てください。

中村氏は三菱重工業(株)で応用生物技術を用いた環境装置、海洋開発、宇宙環境利用に関する研究開発の実施とその取り組みをされてこられた方で、産官学共同研究の企画立案およびその推進のプロです。今回の公募人事に対して全国から31才から57歳までの35名の応募があり大激戦でしたが見事勝ち抜かれた方です。専門は海洋生物学。5年の任期制のポストです。

千葉県との連携による水産の振興

全国各地の水産業・水産関連諸産業の現場と本学を結んで産学連携を推進するのは本学の地域共同研究センターの大きな役割である。本年度は千葉県水産課の深代邦明氏を水産大のリエゾンコーディネータとしてお迎えし、水産大が水産の地域振興に貢献する途を探りました。

千葉の水産の抱えている課題について関係の本学教官と個別に面談していただきました。

深代氏は水大卒ですが、“今までは課題を抱えても水大の誰に相談すればよいかわからず、水大を訪ねる事も無かった。話を伺ってみると、随分と相談に乗ってもらえることが分かりました。これからは気楽にこれます。”との感想を述べられた。これはひとえに対応していただいた先生方のお蔭です。有難うございました。

千葉の水産の課題と面談した教官

- (あさり増産対策)
- ・ 冬場の減耗 (山川紘)
 - ・ 淡水化対策 (糸淵長敬)
- (アワビ増産)
- ・ 種苗生産現場・放流効果 (山川紘)
 - ・ アワビ餌料のタンク培養 (大葉英雄)
 - ・ アワビ養殖キット開発 (竹内俊郎、三堀友雄)
 - ・ 高水温に強い種苗。外国産アワビ導入 (竹内)

- (魚病の診断)
- ・ 養殖管理士の認定コース (舞田正志)
- (アオサ対策)
- ・ アオサ原料の青海苔の製造施設 (能登谷正浩)
 - ・ アオサ青海苔の製造・流通 (三堀友雄)
 - ・ マーケティング調査 (婁小波)
- (ナマズの流通問題)
- ・ 消費流通調査。釣堀や環境修復 (婁小波)
 - ・ (チョウセンハマグリ適正漁獲サイズ)
 - ・ データがあれば作る。資源量の推定も (田中栄次)

シーフードショーで受けた技術相談

2000年7月に東京ビックサイトで開催されたジャパンシーフードショーの会場で広い範囲の相談を受けました。外から見た水大への期待として見て下さい。

- ・ 食塩を使わない淡水魚の干物
- ・ 養殖飼料の安全性
- ・ 常圧で加塩すりみを作りたい。
- ・ 海洋深層水を使ってシシャモの加工をしたが

- ・ 移植方式のヒジキの養殖
- ・ 缶詰の味の劣化
- ・ 鰻の小骨を機械で取りたい。
- ・ エビの白点病の原因と対策
- ・ イカ・タコの発色
- ・ タコをやわらかく煮る方法
- ・ かつおの血合肉の高度利用
- ・ ふかひれの処理を機械化

- ・ モズク製造のカビ対策にオゾン水による除菌
- ・ 刺身のブロックのオゾン水による除菌
- ・ 冷凍マグロの残債の利用
- ・ クラゲを取水口から追出す
- ・ 耐魚病ウイルス活性を魚で実験して
- ・ ホタテのCd蓄積部分の有効利用
- ・ 間材で作る炭の水質浄化材以外の用途

エルシーターフ(LC,TUF)の動向

- | | |
|--|---------------------------|
| 5月16日 産学交流国際ミニフォーラム開催 | 8月30日 センター専任教員会議(北見) |
| 6月8日 千葉県農林水産部長面談：職員派遣要請 | 9月28日 センター長会議(日立) |
| 7月6日 信田・矢澤客員教授講演会 | 10月25日 本学センター開設記念シンポジウム |
| 7月12日 ジャパンシーフードショー(東京ビックサイト)でシーフードセミナー開催 | 11月1・2日/16,17 千葉プロ・深代氏面談 |
| 7月12日-14日 ジャパンシーフードショーで水産食品生産技術相談のブース開設 | 11月24日 日佐客員教授講演会 |
| 7月13日 東京農工大知的所有権シンポ参加 | 11月11日 熊本大センター訪問 |
| 8月24日 温度計測システム構築講習会開催 | 12月8日 広島大センター訪問 |
| | 12月26-28日ふれあいサイエンス細胞科学教育 |
| | 1月29-30日 TLO セミナー参加 (特許庁) |